ならなかつた。『南阿に於ける數年の間、彼の生命が暴民の暴擧によつて奪かれたことは一再ではなかつた。彼は南阿を去る以前其の良心を曲げなかつたが爲に、罪を得て獄に入獄した。然るに彼が住みなれた南阿を去つて祖國印度に歸つた當時、既に全印度の民は熱烈な立法的能力に甘んずるものではなかつた。其れが後年に到つて、遂に不承不運動といふ果を結ぶこととなつたのである。

ブーア戰爭が勃發するに及んで怒ちガンヂイはその特有の無限の忍苦及寛恕に對する、自己の能力を發揮し出した。彼は印度野戰病院團を組織して、印度人團體の忠誠を英國に示すべく彼の忠實なる追從者と共に、砲煙彈雨の下に活動した。ズールー暴動が起るや、彼は一九〇六年再び配下の義勇兵と共に、醫療方面の奉仕に身を獻げた。

斯かる精神のあるにも拘らず、印度人に對する白人種の態度は、益〻強慢になつて行つた。一八九六年、マドラスに於いて惹された騷亂の中で、ガンヂイは次の如く言つてゐる——

『印度人は南阿に於いて最も憎惡排斥せられて居るものである。……鐵道の官吏は我々を動物として取扱ふ。我々は歩道をすら安全に歩行することが出ないのである。……我々は『哀心から呪はれたるもの』であるところの『塵細蟲の汚物』である。又我々は『油じみた襤褸の臭ひ』をさして生きてゐるところの、『惡臭を放つ苦力』である。我々は『惡い實』である。……我々は『兎の樣に子を産む』。而して最近にダーバンで催された或る會合の席上、一人の紳士は『我々は彼等印度人の樣に射殺されることが出來なかつたのは、甚だ遺憾である』とまで言つた。』

事態は次第に惡化して、終に一九〇六年の九月には印度への大規模な集會が行はれた。其れは最近の事態に關する慎重なる討議を經た後、不承引を決行するといふ莊嚴なる誓ひを、深い感激の下に宣誓せしひるに至つた。

國際社會主義會議

勞働問題に三派一致の爲め

【伯林電】第三國際社會主義の會議は三日伯林議會内に於て開會されラルド、ハーリーグロスリング、トム・シヨウ三氏は代表として出席した勞農露國代表はメンシエヴイキ派代表の列席に反對して抗議を提出したが墺地利代表マドラー氏は會議の目的は各派を合同せしめんとするものではなく勞働問題に於て社會主義三派の一致共同を計るものであると説明した勞農露國代表オチック氏と白耳義代表ヴマン・デル・ヴエルデ氏との間に勞農露國の誠意如何に就いて激烈な論爭があつた後會議は休會になつた（國際三日發）

公判は

愈〻來る四月十五日

社會主義者近藤榮藏、高津正道、堺眞柄外十四名に係る軍隊宣傳朝憲紊亂並に日本共產黨秘密結社事件の刑事第二部第二號法廷に於て宇野裁判長吉田檢事の係りにて開廷されることゝなり、山崎今朝弥、布施辰治、今村力三郎、藤原繁夫の四氏が辯護する筈である被告中国人小野象次郎は七人の尾行に追跡されながらその筋の目を欺まして所在不明にて高都清は露國莫斯科の共產黨大會に出席中であるから自然公判を分離さるべく、高津たよ、仲曾根貞代、堺眞榮、藤岡譯吉武長二の五名は保釋

共產黨結社の公判は東京

莫斯科へ行つた高瀨清

盲人の小野は行方不明

出獄中

であり又印刷人

たる大島義勝及び荒井淳一郎の兩名は初めから不拘留のまゝ起訴されたものなれば在監人は山崎悦行、平田哲作、山上正義、中曾根豫、和、浦田武雄、寺田鼎、高津正道、近藤榮藏の八名なりと尚本件原因をなしたる

檢擧の

高津正道同たよ子に係る不敬罪は

豫審免訴となり全國一斉にビラを頒布したといふ例のポスター事件は不起訴となつた

怪曲馬團

六十名の行方

警視廳が祕密の活動

外人や主義者に注目

某外人や社會主義者に注意を加へるらしい

警視廳の有松智能犯係長は昨日東京地方裁判所に金山檢事正代理を訪問し約一時間に亘つて種々打合せの後退廳したが有松係長は外事課特別捜査課と協力して何事か祕密裡に活動を開始しつゝあるが右は露國人コライ・イワノウイッチ・アタナシエフを團長とし波蘭人、伊太利人、匈牙利人其他の外人六十一名を網羅する曲馬團一行が最近露濱に入港し四日午後淺草の某カツフエーで二百圓餘の飲食を僞し其儘行方が判らなくなつたのに因ると、併し一行は頗る酒に酔つたものらしく平和博に興行すべく來たものと言つてゐるが其筋では時節柄

團長と

何んな連中か判らぬ

櫛引事務員談

右につき平和博萬國街の興行主櫛引氏の事務員は曰ふ「伊太利の曲馬團か淺草で興行する噂は聞いて居つたがそれが露國人を團長として居るか何うか、恭うしてその團長に何んな連中が居るか何うか全く判らない、今春一月頃にも哈爾賓の曲馬團から萬國街出演の交渉を受けてそれは斷つたことはあるその後團長らしいものが神戸で馬十頭を買つて呉れとの相談をしたけれども不調に終つた、併しその團長がアタナシエフか何うか覺えては居ない、若しアタナシエフとすれば一行は有名でも何んでもないものと思ふ」

『岡は資本家の爪牙』

警視總監官邸に忍び入つて

血祭にせんとした坑夫

判廷で主義の爲氣焰を吐く

岡警視總監官邸を暗殺すべく短刀携帯し麻布霞町の邸宅に忍び入らんとした殺人犯人岡繁吉（二四）は昨日午後二時所松南警視廳の一部人があるこれは其筋でも重大視し秘密を行ひ取調べ事の擬當で一日午後二時

公判を開

廷した被告

は爲政者に見出の無政府主義者小林信治と云ひ大阪府立中學を卒業して以來鑛山炭坑生活者の狀態を研究すべく十四箇所の炭坑夫に屈はれ彼等の悲慘なる生活は資本家制度の罪であると信じ其後社會主義者等と交際して居たが去る一月十四日都下の社會運動の實況を視察する爲に上京した所が新聞記事に依つて岡繁吉の爪牙になつてゐると思ひ込み先づ總監を暗殺せんと決心し同月廿四日夜淺草公園附近にて白鞘の短刀外遺書の妻其ん買求め深夜警視廳裏手なる總監官邸前を徘徊し遂に忍び入らんとしたが警戒最重の爲三度まで失敗に歸し二月四日も同樣官邸裏を徘徊中

密行巡査

の爲に取押へられたのである被告は法廷にて一切の事實を悪怯れず自白した報事は「私前は將來共主義を改めないかと訊ねると「自分の主義思想は監獄へ出ても斷して改めない自分が吉夫生活中悲慘傷を受けたのも資本家に虐たげられた怨みの怨念だ」と太股の瘢痕を示した檢事は嚴烈なる論告を爲し懲役六ヶ月を求刑し同四時閉廷した判決言渡しは來る四日（東京發）